[1]

氏　　名（国籍）　胡　恵　琴（中華人民共和国）
学　　位　博士（学術）
学位記号番号　博甲第13号
学位授与年月日　平成12年3月8日
学位授与の要件　学位規則第5条第1項該当
論　文　題　目　**四合院住居における食空間に関する研究**
ー中国清代の漢族住居を中心とする考察ー
論文審査委員　（主査）教授　平井　聖
教授　芦川　智
教授　安宅　信行
教授　井内　昇
放送大学　教授　本間　博文

中国は近年来、改革開放の政策を実施してから、外来文化が波のように押し寄せ、住文化の面で、漢族が数年に亙って住み続けてきた四合院形式の住居が崩壊しつつあり、伝統的な住居は急速にその姿を消し、高層集合住宅が現代化の主流となっている。このような背景を考えると、中国の現代化の方向に対してもどのような生活習慣を伝統として今後に伝え、或いは否定すべき因襲なのか、激動の現在その成り立ちや歴史的経過を正しく把握しておく必要があると考える。

中国における歴史的観点からみた住生活の研究はないに等しいといえる。まして住居内の生活や、空間の使い方などを対象とした研究は未着手の分野である。

漢族の清代における四合院の食空間のあり方を明らかにすることを目的とした本研究は、主に明器、画像石、壁画、絵巻、彫刻、文献、及び文学作品などの史料の調査によって考察を行った。住居については、伝統的な住居の調査報告書、実測された平面図、論文の調査と分析の上で、現地の聞き取り調査によって補って進めた。

この論文は、序章　研究の目的、対象、内容、方法、従来の研究、史料について、その他の参考事項、用語解説、第1章四合院住居の形式と食空間、第2章清代の住居平面類型からみる食空間、第3章清代の文学作品にみる食空間、第4章食事家具と食事形態、第5章炊事空間と炊事道具、第6章鍋台竈の形成過程と類型、終章まとめ、参考文献、として構成されている。

以上の考察により得た結果を要約すると主要な点は次の通りである。

中国漢族は原始社会に一棟一室に住んでいたとき、食事を作る空間、食事をとる空間が分離されていなかった。時代が下がると、住居の空間が分節され、食に関わる場所である食事空間と炊事空間が分離されはじめた。住居の空間が絶えず拡大されるにつれて、住空間内部の主次、上下、内外の秩序の順位が再調整されるにつれて、炊事場の位置は次第に中心から離れ、食事の場は住居の最も格式高い堂に設置されるようになったことが明らか

になった。

支配・上流階層の住宅の規模は大きく、食事空間が多く設定され、公私、上下、内外的に分けられる。特にハレとケの食事空間の使い分けがある。ハレの食事では、食事空間は男女の別や、内外の別を考慮している。

中流階層の住居は規模が小さく、食事空間は堂屋しかない。ハレとケの食事空間は同じである。参会者が大勢の場合中庭を食事空間として使うことがあった。

大雑院に住んでいた下層階級の庶民は、一室の空間で、食寝分離できず、その一室を転用的に使い、独立的食事空間をとることができなかった。

北地域と南地域の食事空間には、相違性が存在している。即ち北地域は寝室に炕を設置しているから、炕の上で食事をする行為がある。この時の食事空間は寝室であった。

食器を並べる台には、歴史的にみると、俎、食案、食卓がある。また、土間坐に対応する高さの低い時期、椅子坐に対応する高さの高い時期、その中間的な時期の3期に区分することができる。食事形態に土間坐、床坐、椅子坐の形式があった。食事形態の変化に伴って、食事のパターンも「分食制」から「共食制」に変ったことが明らかになった。

清代の食卓は、卓面の形態から5種類に大別される。また、足の低い卓には2種類がある。明代と比べて、足の高い方卓、円卓が使われる頻度が多い。ハレとケの使い分けも確認できた。清代は食卓を囲んで椅子坐の食事形式が主流となるが、足の低い食卓を使う例もある。子供が使う例や、夏に中庭で食事をする場合に使われる例がある。北地域では寝台の上で使う炕卓があった。

食事作法の起源は、周代にまで溯る。清代の食事の席次は「長幼有序」、「主客の礼」、「男女の別」、「内外の別」が拘っていたことが明らかになった。

炊事作業と炊事道具の分析により、漢代の空間拡散型厨房から宋代の空間集約型厨房への変遷過程が明らかになった。炊事家具は坐式作業の姿勢に対応する低いものから、立式作業の姿勢に対応する高いものへと変化してきた。

清代の厨房の住居における配置は、階層によって異なっている。厨房の内部の構成は概ね6要素に大別される。庶民の厨房では最小限の必要なものだけであったことが明らかになった。

清代の厨房の構成の主役である鍋台竈は、先秦時代の炉穴から移動式の陶竈と固定式の台式竈に進化する過程を経て、漢代の初期形態が形成される。完成期の鍋台竈では焚き口の位置と数の変化や鍋と竈の結合方式の変化が確認できた。清代の竈の形態、構造、規模及び設置方式に地域性があることが明らかになった。